

東京市史稿

七九二

相唱申_レ。尤前書之通古_ニ寺社御奉行御支配_ニ有_レ之_レ處、寛文四辰年中町方御支配_ニ相成申_レ。

一、兩側町家惣間數

南北_ニ 田舎間八間、裏幅同斷。

東西_ニ

同坂下迄四拾壹間半。同坂通り表門前境迄拾貳間。都合五拾三間半。裏幅同斷。

惣坪數四百廿壹坪壹合七夕。

外_ニ、昌平橋表往還道幅五間壹尺、下水貳尺五寸、參詣道敷石通り坂下通り道幅貳間五尺。

一、神田明神市、毎年十二月廿日廿一日相立_レ事。○下畧。西町ノ條同文。

江戸川掘替

五月廿一日庚寅○元和二年(紀元二二七六年)○庚寅、三正綜覽。幕府先弓頭阿部正之○四郎。耶ヲ

奉行トシ、關東ノ人夫ヲ發シテ、神田臺○市内。神田區。ヲ掘鑿シ、江戸川ノ

流路ヲ轉ジ、堤防ヲ拓平シテ宅地町地ヲ開キ、十月○元和二年(紀元二二七六年)。

ニ至リ功ヲ爲ス。爲_ニ此ノ前後_ニ於テ、寺社ヲ轉移シタル者少

ナカラス。蓋駿府詰諸士ノ江戸ニ歸還スル者_ニ宅地ヲ給與セ

ムカ爲_メ也。○本光國師日記。慶長日記。坂上池院日記。武德編。年集成。東武實錄。天寬日記。明良洪範。白石紳書。台德院殿御實紀。東京地理志料。

江戸川掘替

江戸川掘替 前將軍家康川○德薨シ、駿府詰ノ士江戸ニ歸還スルヲ以テ之カ宅

地ニ供充スルノ必要有リ、江戸川ヲ掘替へ、神田臺ヲ拓開シ、及神田川沿岸其他